

聴く

新潟いのちの電話だより

2014.3

No.120



相談電話

(025) 288-4343

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

世にも不思議な物語～炉端の昔話～(3)

萩屋マサ子

「新潟いのちの電話」の第一線は、ボランティア電話相談員が、365日、24時間体制を交替しながら守ってきました。相談員は、有料の養成講座を終了し、交通費自弁のボランティアとして相談活動に参加します。相談員の訓練計画は、専門家である臨床心理士の方々の助言をもとに作りあげられました。それは相談をしてくる人の、多様な訴えと向きあい、その声に耳を傾けることのできる相談員の育成にありました。素人である相談員が、この重い役目に耐えられるだろうか、相談活動の責任と相談員のケアに細心の注意が払われました。継続的なグループ訓練では、ときには思いがけない指摘に傷つくこともあり、先の見えない不安と焦りの堂々巡りが繰り返されます。この継続訓練での緊張感や挫折の体験が、相談員としての自覚を育てたように思います。忍耐強く続けられた訓練で教えられたのは、「いのちの尊さ」「他の人への配慮」「自分自身に対する気付き」でした。この訓練の形は新潟特有のものであり、相談活動の原動力となりました。

日本海側で初めての「自殺予防対策」として、地域の人たちが声をあげ、設立されたのが「新潟いのちの電話」です。いまでも自殺多発県解消の道筋は見えていませんが、官・民あげての関心の広がりと努力によって、相談窓口と支援の輪は各方面に広がっています。そして今も「新潟いのちの電話」を必要としている人たちが居るのです。

世（不公平で理不尽な現代社会）にも、不思議（信じられないほど多様な協力）な物語（積み重ねられる人間関係）は、小さな炉端の思い出話の終わりに「まんざら捨てたものでもない今」を生きていこうと再会を約束してお別れです。

折角の紙面をいただきながら、思いの万分の一もお伝えできない力量不足をお詫びいたします。ありがとうございました。

（元新潟いのちの電話事務局長）

ある日の相談室より

もうすぐ年末というところにかかって来た電話です。

「どうされましたか」「いやあ、気分転換に…」

「今年は話す人がいない年でした。病院に行ったり、市役所や福祉施設なんかも行ったけど、暴れてしまって、話にならなかった。10月に注射を打ってからはなくなったけど、それまでは暴れていた。今年は去年の年末より少しはまし。寝るところはあるし、実家で自分の部屋にいるんですけどね」

30歳位の男性で6年位前に「喪失」があったと話される。「何を喪失されたのですか」「自分かな。生き方を失ってしまった」19歳から24歳までは、職場と人間関係に恵まれて「濃密で充実」した生活だった。そんな生活が続くことに何の疑いもなかった。でも「喪失」があり、何かが狂ってしまった。

「今年は病院が生活の場で、慣れることに精一杯でした。今の自分は人と交流することが上手く出来ない。自分は何やってんだとか自分に関わらないでくれと思ったりします。人と話すとき、何かのきっかけでパニックになり暴れる。そんな自分の状態を人に言いたくないので引きこもり状態になっている。話す人がいない自分にとって、いのちの電話がなくなったらきついです」

来年転院が決まっている。自分の今後は病院との関わり方にかかってくるので、話を聞いて納得できるお医者さんを自分で決めていきたい、と話されて電話は終わりました。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)

毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。
電話番号 0120-738-556

「心」動かされた人々が集う場

富澤佳恵

「ボランティアをしている」と言うと、「なんでしているの?」から始まり、「暇なんだね」「公德心が強いんだね」などと言われることが多い。とかく「いのちの電話」で相談員をなさっているみなさんは、特にそうした言葉をかけられることが多いのではないのでしょうか。

なぜ人は行動するのか。私は、NPOや市民活動を支援する中間支援組織に10年勤めていますが、お会いする方々はみな「気になって」「ほっておけない」という「気づき」を、行動に移している結果なのだと感じています。

当会のチャリティーバザーは、「相談員はできないけれども、何か力になれることをしたい」という「心」を動かされた人々が、年1回集まる貴重な場になっています。我々、後援会の役割は、「活動の周知」と「資金集め(ファンディング)」ですが、チャリティーバザーは、この二つの目的を達成するために、役員一丸となり、数ヶ月前からチケット販売、街中でのポスター掲示やチラシ配布、ウェブを使っての広報などを行います。

私は今年度から役員のお仲間に入れていただき、この場を体感できたことをとても嬉しく思いました。何よりも、私の発信したインターネットの情報を見て、知人が会場を訪れ、買い物をしていってくれたことも喜ばしいことでした。後援会の現在の課題は、若い力の活用です。来年度のチャリティーバザーでは、次世代の育成を私の目標として、人々の場づくりに努めます。

(新潟いのちの電話 後援会理事)



お知らせ

新潟いのちの電話 開局30周年感謝の集い

新潟いのちの電話は1984年(昭和59年)4月に全国17番目のセンターとして開局し、2014年4月に30周年を迎えることになりました。

長年のご支援に感謝して、19日(土)に「開局30周年感謝の集い」を開催することになりました。式典では長年寄付を頂いている個人や団体の方々に感謝状を贈呈する予定です。また、30年間の電話相談や自殺予防についてまとめた記念誌を発行します。

新年度に向けて 理事会・評議員会を開催

2月28日(金)、理事会と評議員会が開催され、2013年度補正予算の承認のほか、新年度に向けてのいのちの電話の役割りとさらなる発展を決議しました。

2014年度 ボランティア相談員認定式

3月22日(土)31期生9名の認定式と1期から30期までの160名の認定更新が行われました。相談員は毎年、誓約書を提出することで、心をあらたにして「365日、24時間、眠らぬダイヤル」を継続していくために、活動しています。

新年度には32期相談員の養成講座がスタートします。

新潟いのちの電話受信状況

2013年1月1日から12月31日まで(365日間)の、新潟いのちの電話の受信状況は、

相談受信数…20,296件

(内 自殺志向あり

1,862件 9.2%)

1日平均…53件

でした。

また、全国のいのちの電話と協力しながら、毎月10日に実施している自殺予防フリーダイヤルの受信数は、昨年一年間で619件(内 自殺志向あり77件12.4%)でした。

内閣府から発表された新潟県の自殺者数は660人ということです。一昨年より減少したとはいえ、自殺率は依然として高い状況です。

新潟いのちの電話には、ほとんど休みなく相談電話がかかってくるため、なかなか繋がらないという声が絶えません。



2014年3月24日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0904 新潟市中央区上戸2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp/>

つのも不安の中で

途方に暮れて ため息をつくことは
だれにも しばしば
どうすればいいのか
思いつくことは 何ひとつない

そして危機は 時限爆弾のように
刻一刻と 時を刻みながら迫ってくる

どこに救いはあるのか
どこへ逃げればよいのか

でも
パニックには 陥らないようにしよう
できるだけ 心を落ちつかせよう
ちょっとでもいいから
すべてに間を置いてみるのだ

距離がとれれば とれるほど
危機は より小さくなって見える

この瞬間から
金縛りのような不安は
徐々に 徐々に
とり除かれていく

そしてなおも
あれこれと 転げ回っているうちに
あれもだめ これもだめの動揺から
しだいに わたしたちは
一つの明るさへと 導かれて行く

フィル・ボスマンス